

Recommended Artist Vol.3

今月のイチオシアーティスト

トリニティ・アイリッシュ・ダンス

2004年より2年に一度定期的に来日ツアーを行い、全国のファンに愛されるトリニティ・アイリッシュ・ダンス。2020年の6月に8度目の来日を果たします。なぜここまで高い人気を保ち続けられるのか、その魅力をお伝えしましょう。

新作を日本で初演。「今ここで」しか見られない演出が毎回のお楽しみ

芸術監督のマーク・ハワードは、かつてハリウッドの名俳優たちの振付師も担当していたアイデア満載の天才。伝統的なアイリッシュ・ダンスに新しい振付を融合し、人々を驚かせる斬新でクリエイティブなステージを次から次へと作り上げます。どんな演出を用意して来るのかは来日直前に発表され、2018年のツアーでは3つの新作が発表されました。特に「ザ・サーカス」という演出は、ダンサー20人を全員起用したトリニティ史上最大規模の作品となりました。ステージでは迫力のタップダンスが繰り広げられ、エネルギッシュなパフォーマンスが最高潮に達し、公演の最後を大々的に盛り上げました。

終演後にロビーでのサプライズ！

終演後に、ダンサーたちが必ずロビーでお客さんをお見送りします。公演鑑賞を終えて、興奮冷めやらぬお客様が、帰り際にロビーでダンサーたちと写真撮影したり、会話や握手をしたりすることができますので、さらに満足感を得てお帰りいただくことができます。



世界チャンピオンのグループが子供たちに夢を与える

世界選手権に出場できるのは、世界各国の地域大会と全国大会を全て勝ち抜いた最高のダンサーだけ。アイリッシュ・ダンスの世界選手権の優勝者から選抜したトリニティ・アイリッシュ・ダンス・カンパニーのクオリティは極めて高いです。2018年のツアーでは世界チャンピオンが2人も参加しました。そして東京と横浜の公演では、日本のダンススクールとコラボし、10歳から14歳までの日本人の子供たち5人が一緒に出演した演出がありました。ご来場のお客様から、沢山感動の声をいただき更に嬉しいことは、出場された子供たちがこの出演機会をきっかけにととても励まされたとのこと。中でも昔シャイだった子供はなんと世界大会に向けて練習に励むようになりました。我々公演の主催者としては、興行以外に、地域と繋がりが、また子供たちの未来に良い影響を与える社会的貢献もできたことを思うと、胸が熱くなります。是非各地の主催者様とも、地域の皆様とのコラボレーションを企画したいと思っています。

国民の休日「セント・パトリックス・デー」に合わせてメンバー先行来日

来年3月に、アイルランドの祝日「セント・パトリックス・デー」に合わせて、ダンサーが先行来日します。パレードの参加や、ワークショップ、そしてラジオ、テレビ、雑誌取材を受けるなど、公演に向けて宣伝協力させていただきます。



ドミトリー・マスレーエフ(ピアノ)



ザ・キングズ・シンガーズ



ヘルシンキ大学合唱団



ヤボルカイ兄弟(ヴァイオリン&チェロ)



ライアン・バンクロフト(指揮)

テンポプリモ 2020-2021 海外アーティスト企画ダイジェスト



トレヴァー・ピノック指揮 ザルトツブルク・モーツァルテウム管弦楽団



ハリウッド・フェスティバル・オーケストラ



ベルリン・フィル12人のチェリストたち



ヴァハン・マルディロシアン指揮 ウィーン・アカデミー室内オーケストラ
共演:前橋汀子(Vn)、フジコ・ヘミング(Pf)

令和元年となる今年も続々素晴らしいアーティストが来日しています
が、来年のラインナップも実に華やか！
まずはオーケストラから。何といつても目玉はベートーヴェン生誕250周年の年に来日する**ボン・ベートーヴェン交響楽団**(6月)。楽聖の故郷ドイツ・ボンから第九交響曲等を引きつぎ、記念の年に大輪を咲かせます。
秋には**ザルトツブルク・モーツァルテウム管弦楽団**(11・12月)。こちらもモーツァルトの妻コンスタンツェが設立した本家本元の楽団で2年ぶりの来日です。指揮者に巨匠**トレヴァー・ピノック**を、ソリストは近年人気の**モナ・飛鳥**(ピアノ)と、ただ今テレビで引っ張りだこの実力派**嶋真優**(ヴァイオリン)の豪華布陣。
エンタメ系では世界チャンピオングループの**トリニティ・アイリッシュ・ダンス**(6・7月)、完売続出の**ハリウッド・**

フェスティバル・オーケストラ(2021年1月)が大人気につき来日します。
室内楽も煌びやか。人気公演**ベルリン・フィル12人のチェリストたち**(6月)をはじめ、チエコの名カルテット**パヴェル・ハースSQ**(5月)、韓国の俊英**エスエスSQ**(5月)、モーツァルトがウィーン時代を過ごした聖地のレジデント・カルテット、**ウィーン・モーツァルトハウスSQ**(10・11月)、人気ピアニスト**フジコ・ヘミング**とツアーを行う**ウィーン・アカデミー室内オーケストラ**(11月)。コラスも当たり年です、まずは完売続出の**ザ・キングズ・シンガーズ**(10月)、N響への客演のためドイツより来日する**アウディ・ユーゲント合唱団**(7月)、また、NHKで話題となったベネズエラの**ラソモス**(4・5月)、世界最高の男声合唱団と名高い**ヘルシンキ大学男声合唱団**(2021年1月)、と、バラエティ

豊かです。
ソリストはピアニストで前回チャイコフスキーコンクール勝者の**マスレーエフ**(4月)、前橋汀子とツアーを行い、指揮者としても活躍する**マルディロシアン**(6月)。ヴァイオリンではお馴染み**ギトリス**(5月)や**サラ・チャン**(10月)、弾き振りも巧みな**ラクリン**(9月)等巨匠クラスが目白押し。また**ヤボルカイ兄弟**(ヴァイオリン&チェロ/10・11月)、**アレクサンドル・ラム**(チェロ/10月)、**ジャスミン・チエイ**(フルート/11月)、**キプルスカヤ**(ハープ/11月)が続々来日。指揮者は巨匠**ボリヤンスキー**や**トウヴェイ**、**ケーニツ**等ベテランから、中堅の**シズオン・クワハラ**、**ジャジュラ**、新人の**バンクロフト**や**マイケル・シール**まで、枚挙にいとまがありません。ぜひご期待ください！



感動を呼んだフジコ・ヘミングとのモーツァルト(福岡)

「ありがとうKöszönöm!」

全公演でアンコールの前に、マエストロがハンガリー語について、**Pervez Qayyum**、**白鳥ハットユ**(ハッチュー)、塩気が足りない**Sótai János**、**タラン**など、日本語と意外と似ていることを笑顔交じりに話し、会場を沸かせました。明治2年から令和元年に至る日本とハンガリーの150年に渡る友好の歴史に刻んだ新たな1ページ。残り2公演となった浜松で海に行った団員が骨折し、残りの出演を断念するなどもありましたが、非常に大成功を収めたツアーでした！

今回数少ないドイツ・プログラムであるハンガリー出身のヤボルカイ兄弟とのブラームスのヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲が演奏された大阪と浜松の公演。今回、マエストロとの初共演となった二人ですが、その見事な演奏に終演後マエストロもぜひ今度、日本のオーケストラとの公演でも共演したい！と絶賛しました。

モーツァルトのピアノ協奏曲が始まる直前に地震が発生。さわつく中、聴こえて来たモーツァルトに、客席全体が息をのむように静まり返り、演奏が終わると万雷の拍手喝采を浴びました。

名古屋・市川、福岡の公演でのフジコ・ヘミングとの共演は、完売続出。市川では、
「Jo Napot! (こんにちは!)」
英語やドイツ語、ロシア語とも全く異なるハンガリー語の国から来たハンガリー・ブダペスト交響楽団の9公演合計12日間に渡るツアーが5月30日に無事に終了しました。総勢81名のオーケストラは、なんとハンガリー語をこちらも覚えてあいさつすると、ほとんどの団員が頑張つて日本語の挨拶の言葉を覚え答えてくれました。その姿は関係したスタッフからも「他のオケと比べても紳士的」と好印象。
今回、オーケストラの名譽指揮者を務めるマエストロ小林研一郎が全部の公演を指揮。マエストロにとっては第一回ブダペスト国際指揮者コンクールにおいて、最初に指揮したオーケストラ、つまり初めてヨーロッパで指揮をしたのがこのオーケストラ。3日目である5月21日サントリール・ホールの公演では、日本・ハンガリーの外交関係開設150周年を祝してハンガリー大使館が主催に名を連ね、秋篠宮皇嗣殿下ご一家がご来臨される中、マエストロが150周年のために作曲されたハンガリーへの想いを日本初演。日本やハンガリーの民謡などを基にしたメロデーや和太鼓などによる迫力ある演奏はお客様からも大絶賛！この曲は、マエストロの故郷、いわきでの公演でも再び演奏。マエストロ自身もツアー終わりに「このオーケストラとでないとこの曲は演奏出来ない」と感想を漏らした程の成功でした。

「Jo Napot! (こんにちは!)」
英語やドイツ語、ロシア語とも全く異なるハンガリー語の国から来たハンガリー・ブダペスト交響楽団の9公演合計12日間に渡るツアーが5月30日に無事に終了しました。総勢81名のオーケストラは、なんとハンガリー語をこちらも覚えてあいさつすると、ほとんどの団員が頑張つて日本語の挨拶の言葉を覚え答えてくれました。その姿は関係したスタッフからも「他のオケと比べても紳士的」と好印象。
今回、オーケストラの名譽指揮者を務めるマエストロ小林研一郎が全部の公演を指揮。マエストロにとっては第一回ブダペスト国際指揮者コンクールにおいて、最初に指揮したオーケストラ、つまり初めてヨーロッパで指揮をしたのがこのオーケストラ。3日目である5月21日サントリール・ホールの公演では、日本・ハンガリーの外交関係開設150周年を祝してハンガリー大使館が主催に名を連ね、秋篠宮皇嗣殿下ご一家がご来臨される中、マエストロが150周年のために作曲されたハンガリーへの想いを日本初演。日本やハンガリーの民謡などを基にしたメロデーや和太鼓などによる迫力ある演奏はお客様からも大絶賛！この曲は、マエストロの故郷、いわきでの公演でも再び演奏。マエストロ自身もツアー終わりに「このオーケストラとでないとこの曲は演奏出来ない」と感想を漏らした程の成功でした。

Tour Report ツアーレポート ハンガリー・ブダペスト交響楽団



絶賛を博したヤボルカイ兄弟とのブラームス(浜松)